2026（令和８）年

ゆめじゅく

11月

〒792-0821　新居浜市瀬戸町 7-30
ＴＥＬ　：0897-41-5859（Fax 兼用）
E-mail　：seto@city.niihama.lg.jp

瀬戸会館

１１月の予定

★移動図書館青い鳥号
　５日（木）・１７日（火）
　１５時１０分～１５時５０分
★ゆめじゅく編集委員会
　９日（月）１３時３０分～
★人権のつどい日
　１１日（水）１９時３０分～２１時００分

★回転木馬
　１１日（水）１０時～１０時３０分
★人権・同和教育関係行事
　１０日（火）愛媛県人権・同和教育研究大会（松山市）
　２８日（土）・２９日（日）全国人権・同和教育研究大会
　（埼玉県　千葉県　神奈川県　群馬県）

★ゆめ喫茶は会場の都合によりお休みです。

月 日 曜日 日直

９月17日瀬戸児童館と合同消防訓練を実施しました！

であい展

１　開　催　日　：令和８年１１月９日（月）～１１月１４日（土）
　　８時３０分～１７時※最終日は１２時まで
２　場　　所　：瀬戸会館１階Ａ室Ｂ室
３　参加サークル：篆刻・ポーセラーツ・紙バンド・すみれ・つまみ細工・マクラメ
　　・油絵・己書道場・短歌・ほか
４　オープニング：１１月９日（月）１０時～１１時　２階大会議室　オカリナ・詩吟
５　ワークショップ　：１１月１０日（火）１０時～１６時　１階Ｂ室

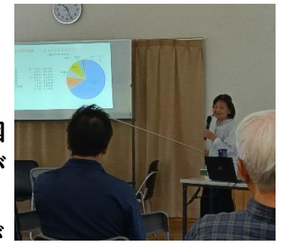
地域の話題

新居浜太鼓祭り

人権のつどい日

１０月の「人権のつどい日」は、新居浜市声の図書室「やまびこ」（音訳ボランティア）代表の髙橋　意子さんの「声の白杖となる」と題したお話でした。

１「声の白杖」・「音訳」



「声の白杖」とは、「音訳」を通して、視覚に障害がある人に、より多くの情報を提供し、生活を支えるものです。日本には視覚に障害がある人が約 164 万人（※2009年日本眼科医会推定）いるそうです。さらに、視覚障害以外に、文字を読むことが難しい人や紙資料を手に持ったり、ページをめくったりすることが困難な人、加齢に伴い視力が低下した高齢者などを加えると、かなりの数の人が録音資料を必要としています。
最近は、多くのオーディオブックが販売されてはいますが、これにはジャンルの偏りがあり、必要な情報が提供されているとは言い難い現実があります。

オーディオブックは「朗読」と呼ばれるもので、読む人が主体となり、鑑賞（読みを聞くこと）が中心となり、そこには主観的な読みが入り、原文を変えることもあります。これに対して、「音訳」は、聞く人が主体であり、情報の伝達（内容を聞くこと）が中心になり、そこには客観的な読みが求められます。また、図表等の情報も「音訳」の対象になります。

２　音訳ボランティア

録音資料を必要としている人が多くいるということは、録音資料を作成する人が必要です。その人が「音訳ボランティア」です。近年、ICT 機器の普及が進み、合成音声での読み上げ技術も向上してきました。しかし、合成音声は、即時性や手軽さというメリットがある反面、誤読があったり、文意にそぐわない読みをしたりと、長時間聞くと聞き手の疲労が増すというデメリットもあります。また、合成音声は、図表や写真などの視覚的資料や漢字の説明もできないというデメリットもあります。

利用者が求めている録音資料とは、正しい日本語で読まれ、視覚的資料が適切に説明されており、一度聞いただけで意味が理解できる音声情報です。つまり、録音資料の作成には、人間による音訳が不可欠です。それを担っているのが、音訳ボランティアです。

３　新居浜市声の図書室「やまびこ」の活動

「やまびこ」では現在30名ほどが活動しているそうです。主な活動内容ですが、市政だより、社協だよりなどの生活に必要な情報を録音資料にして提供しています。具体的には、原稿を振り分け、録音し、編集するという作業になるそうです。パソコンで作成した資料をCDに保存し、市や公民館に納めて、情報を提供しています。カセットテープを希望される方には、カセットテープに保存し提供しているそうです。この他に、「テープマガジン」を作成し、新聞記事や川柳、ファッションや健康に関する情報を年間３回提供しているそうです。「テープマガジン」に限り録音者の名前も入れており、楽しみされている方も多いということです。

「音訳ボランティア」という言葉を聞いたことはありましたが、今回実際にお話を伺うことで、その活動がわかり、ボランティアの必要性を実感しました。

接ぎ木をする老僧
～「後世」(ごせ)と(こうせい)～

谷中の里に古びた寺がありました。寛永（1624～1644 年）の頃、徳川3代将軍家光とお供の者が鷹狩りの帰りにこの寺に立ち寄られました。ちょうどその時、80歳になろうかという老僧が庭で接ぎ木をしていました。将軍が「何をしているのか？」と聞きました。

老僧が「接ぎ木をしています」と答えました。

すると将軍は笑って言いました。「あなたは年老いているので、今、接ぎ木をしても、この木が大きくなるまで、命が続いているかどうかは分からないだろう。だから、そのように心を込めてやる必要はあるまい」

これに対して老僧はこう答えました。「よく考えてみてください。今、接ぎ木をしておけば、後生の代になってどれもが大きく育っているでしょう。そうすれば、林が茂り、寺も何とかやっていけるでしょう。私は寺のためを考えてやっているのです。決して私一代のことだけを考えてやっているのではありません」と言いました。

これを聞いた将軍は「老僧の申すことはまことであり、もっともなことだ」と感心されました。

この話は、『駿台雑話』という随筆集に紹介されています。著者の室鳩巣は“老いた身であっても、老僧が接ぎ木をするように後輩の道を開く一助になれば、この世にいなくなっても生きているようなもの”と力説しています。

コピーライターであり小説家の橋本治さんによると、後世には2つの読み方があるそうです。それは、「ごせ」と「こうせい」です。「ごせ」と読めば、「来世」や「死後の世界」のことになり、「こうせい」と読めば、「後の世」や「後の時代」のことになるそうです。前者は、「自分が存在し続ける」という輪廻転生を前提にしており、自分の来世を考える意味で利己的です。後者は、「自分が存在するのは一時である」という無常の概念を前提に、自分が存在しなくなった後の世を考える意味で利他的です。そこで、橋本さんは後者の「こうせい」を美しいと述べています。この老僧はきっと「ごせ」ではなく、「こうせい」のこと、きっと「自分は消えても『他人』はある。その『他人』につなげていくことが自分の人生である」と考えていたにちがいありません。

そういった意味でこの寓話を読むと、老僧の生き方が美しく思えてくるのは、私だけでしょうか？

“人を育てる”ことは、接ぎ木のようなものかもしれません。古代中国の箴言に「一度植えて一度収穫があるのは穀物、一度植えて十度収穫があがるのは木、一度植えて百度も収穫があがるのは人である」（『管子』、通釈）とあります。私も永らく教育にたずさわっていたので、この箴言は、痛いほど胸に突き刺さります。果たして、自分の教員生活で、どれほどの人の成長にかかわることができたか、忸怩たる思いです。

「たとえ明日世界が滅びると知っていても、私は今日、なおリンゴの若木を植えるだろう」と言ったのは、ドイツの宗教改革者マルティン・ルターです。明日世界が滅びるとは思いませんが、この若木（前述の接ぎ木）が希望であり、恩送りであるなら、それを信じて同様にすることを心掛けて、私も微力ながら若い先生方のお役に立てればと「接ぎ木をする老僧」の話を読んで思いました。

瀬戸会館使用状況

※１０月１９日現在の予定を記載しております。

日	月	火	水	木	金	土
1	2 楠木クラブ 己書道場 べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	3 文化の日	4 水美会 みそひともじ倶楽部 楠木クラブ 泉川学習会 空手	5 どんぐり ３B体操 レインボーA 紙バンド エストレージャ よさこい	6 健康体操 ピンポン	7 スクエアダンス
8	9 すみれ E Dance school fun	10 えんとつ山 詩吟 レインボーB E Dance school	11 水美会 人権のつどい日	12 どんぐり レインボーA オカリナ小組 エストレージャ よさこい	13 健康体操	14 てんこく
15	16 楠木クラブ べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	17 えんとつ山 詩吟 レインボーB 書神会 E Dance school	18 水美会 楠木クラブ ポーセラーツ 泉川学習会 空手	19 どんぐり 己書道場 ３B体操 レインボーA 紙バンド エストレージャ よさこい	20 健康体操 彩の会 ピンポン	21 スクエアダンス
22	23 勤労感謝の日 11月23日	24 つまみ細工 詩吟 若葉会 レインボーB 書神会 E Dance school	25 水美会 楠木クラブ 泉川学習会 空手	26 どんぐり レインボーA エストレージャ よさこい	27 健康体操 彩の会 ピンポン	28 マクラメ ポーセラーツ
29	30 楠木クラブ すみれ べっぴんさん ピンポン 書神会 E Dance school fun				赤色:午前 青色:午後 黒色:夜間	瀬戸会館 HP

瀬戸会館では、人権、健康、福祉、生活等の各種相談を行っています。お気軽にご相談ください

フレイル予防講座（※加齢による心身の衰弱）

９月 30 日（水）１４：００から瀬戸会館にて地域包括支援センター主催による健康講座が開催されました。
たくさんのご参加ありがとうございました。